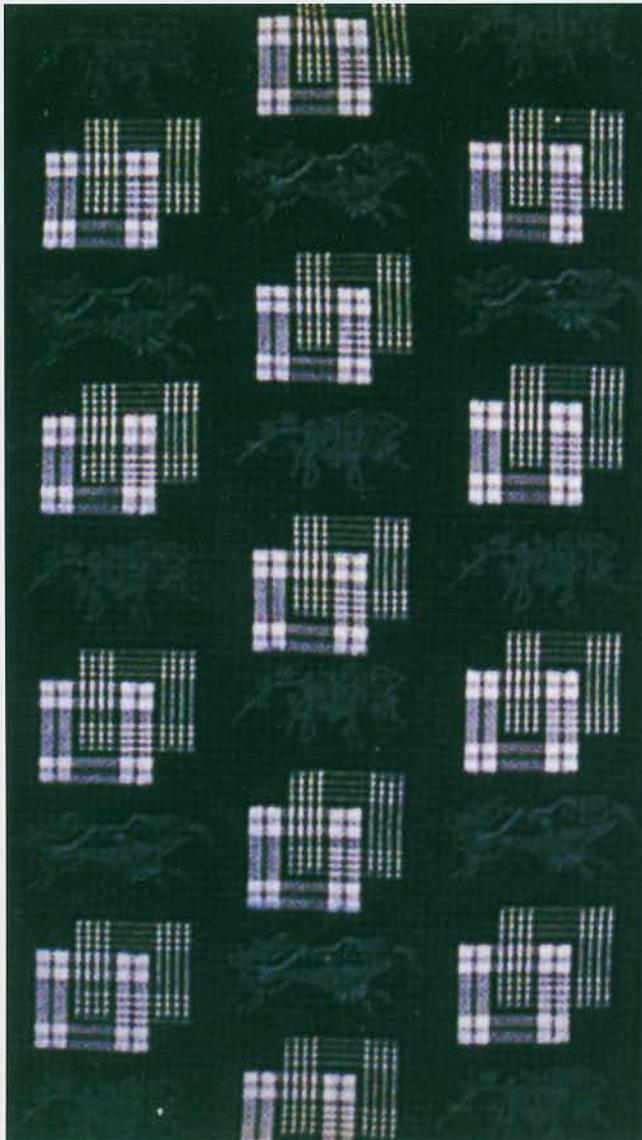


# 歴史散歩

れきしさんぽ No.21

## く る め かすり 久留米絣

重要無形文化財 昭和32年 4月25日(国指定)



ふとん絣「かぶと」(江戸末期)

### ■ かすり

かすりは、織糸をあらかじめ模様にしたがって縛って妨染し、これを染めて作った模様織物を「かすり」と云います。経糸を絣に染めた経絣、緯糸に絣糸を用いた緯絣があります。また、経緯両方に絣糸を使用したたてよこかすりたてよこかすりもあります。「かすり」は、その模様のまわりが織りのずれによってかすれたように見るところから発生した名前だと考えられます。外国では、古くはエジプト、ペルー、インド、ペルシャを始め、東南アジアの諸島で作られていました。特にインドネシアの島々で織られたものは、模様の絵画的な複雑さと美しさで知られています。

日本には飛鳥～奈良時代のころ、法隆寺や正倉院の布の中に「太子間道」といわれる広東錦がありますが、かすりとして高度な技術で織られており、当時の日本の織物技術から考えると中国から持ち込まれたものと考えられています。

日本において、本格的にかすりが織られ発展したのは、江戸時代の中期以降のことで、その技術は、新しく南方の沖縄あたりから伝えられたものではないかと考えられています。この技術は、日本の独特な染織工芸技術と結びついて、絵絣風のものにまで発達しました。

絣織は、江戸時代の後期に大いに発達し、材料も絹、もめん、麻などが用いられ、材料や技術によって全国各地で織られるようになりました。絹の織物としては大島紬おおしまづつむぎ、結城紬ゆづり、もめんは、久留米絣、薩摩絣さつま、伊予絣いよ、麻は宮古上布、越後上布などが有名です。

## ■ 久留米絣

久留米絣の始祖は、井上 伝と云われています。伝は、天明8年(1788)久留米通外町の米屋の娘として生まれました。12、3才の頃、古着の飛白の布を経糸と緯糸に分解し、それを種糸としてくびり、色を染め、織り

あげて、かすり模様を表現することに成功しました。「加寿利」として市場に出された新柄は、霰、霜降り<sup>あられ</sup>に似ていることから、「霰織」「霜降織<sup>あられおり しもふりおり</sup>」として藩内の評判を呼ぶことになりました。40才の頃には400余名の婦女子

### ■ 久留米絣の製作工程 ～～久留米絣の製作工程は、30の工程をもって作られます。～～

#### 1. がらつくり(図案)

伝統の柄を基本に、重要無形文化財の「絣」としての風格や品位を有した図柄を作成します。図柄は、製作委員会の審議を必要としています。

#### 2. 絵紙(えがみ)

図案によって、経緯糸の本数を決め、その長さ、羽数を書き入れます。

#### 3. 下絵

絵紙によって、緯糸の縮みを考慮して絣模様を5mm方眼1目を5羽として書きます。

#### 4. 絵糸書き

緯糸をくびる基礎の糸になるもので、下絵を絵台にのせ、絵台の幅にカタン糸の30番手をはり、緯糸の絣になる部分に下絵に従って墨付けをします。ここに絵糸(種糸)が出来上がります。

#### 5. 経尺つくり(たてじゃく)

竹を薄く削り、経糸の柄を決め、くびる幅を割り出し墨で印をつけた尺を作ります。

#### 6. 経はえ(整経)

精練された糸を経糸として使うため、長さとお本数をそろえて、円柱形(千切)のものに巻く。

#### 7. むきはえ(整緯)

緯糸を20本単位で、経の長さのなかにある柄模様の数に応じて整える。

#### 8. 糸たき(精練)

糸を強くし、不純物を取り除くため、水に5%の苛性ソーダを入れ、約2時間煮沸する。

#### 9. さらし(漂白)

さらし粉の上澄み液に、重炭酸ソーダを加えた溶液に、糸を浸してさらす。

#### 10. のりづけ

糸の乱れを防ぐため、薄い糊をつける

#### 11. 手くびり

図案によって記された絣の部分に「粗苧」で経糸、緯糸を括る。

#### 12. 藍建

藍草から作った土質の藍に、木灰汁・酒を加えて醗酵させ、貝灰を入れる。

#### 13. 藍染

濃度の低い下藍から順に、中藍、上藍と浸し、染色を助けるため窪みてたたき、藍を酸化させる。

#### 14. 水洗

糸についた不純物と余分な染料を取除くため、一昼夜水につける。

#### 15. 絣解き

絣部分に括った粗苧を解く。

#### 16. 水洗、漂白

再度、水洗いを行う。

#### 17. 糊付、乾燥

糸の毛羽立ち、乱れを防ぐために薄糊をつけて、天火で乾燥する。【経糸】

#### 18. 経割(柄合せ)

経糸を柄模様に合わせながら束ねる。

#### 19. 糊付、乾燥

絣の乱れ、糸乱れ防止と製織を容易にするため。

#### 20. 割り込み、箆通し

柄模様を着尺の幅に合わせるため、絵紙に割出された糸数を並べ、箆に糸を通していく。

#### 21. 経巻

箆に通した糸を柄が乱れないように巻箱に巻く。

#### 22. あぜかけ(綜統とおし)

巻箱に巻いた糸を上下に分れた綜統に通していく。綜統の上下運動で開口部分に緯糸を入れていく。

#### 23. 機仕掛

綜統・箆を通した糸は、巻箱に巻かれたまま機に取付けられる。【緯糸】

#### 24. 緯割(ぬきわり)

経糸を取り除き、糸篠(20本程度)に割いて長く伸ばす。

#### 25. 枠上げ

20本づつに分けられた糸は、緯取枠に1本づつ巻き取る。

#### 26. 管巻

緯取枠から投杆に入れる竹管に糸を取る。

#### 27. 手織

経糸・緯糸が揃い、機織が始まる。

#### 28. 湯のし・乾燥

出来あがった織物を、湯のしをし、反物を整える。

#### 29. 整反

織物を尺台にのせ、所定の長さに仕上げる。

#### 30. 検査

作品を「福岡県かすり検査条例」に基づき検査を受ける。

## ■ 絣製作に使用される道具類



● 藍甕  
甕を地中に埋め、中に藍を入れ醗酵させ、糸を染める。



● 絵台  
両側の箴羽に糸を張り、糸に柄を書く

● 箴ハシ(計算用)  
羽を目盛にして絣柄の寸法を測る。この寸法を基に経緯尺を作る。機織りの箴は少し目が詰まっている。



● 久留米絣いざり機(県指定有形民俗文化財)

の指導を行い、絣織りは久留米藩の機織り業の基礎を作りました。

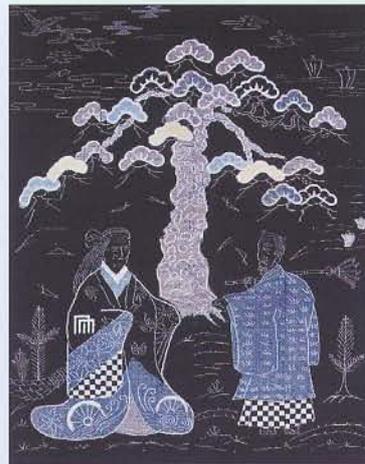
また藩主は、「開成方」という役人を置き、一般の家庭への奨励策を講じました。さらに幕末における下級武士の生活苦を補うため、武家に女子にも内職として従事することを奨励しました。明治維新後の新政府になっても殖産興業を奨励し、増産を図ったため、久留米絣の名は全国的になりました。

久留米絣は、粗苧による手くびりと、植物染料の藍による染色によって染め上げられます。絣糸を投杼機で入念に織り、強さと色ざめしないのが特徴です。また模様にも地域により特色があり、山間部では小柄絣、筑後川中流一帯は中柄や大柄、さらに下流域では大柄絣及び絵絣が生み出されました。

### ■ 重要無形文化財指定

久留米絣は、戦後まもなく戦時中からの綿系統制令が撤廃され、復旧の兆しが筑後一円に見られました。しかし業界は、外国からの化学繊維の進出や、高度成長期における着物から洋服への嗜好の変化により、需要の減少がそのまま製造戸数の減少にも影響していきました。一方久留米絣の芸術上価値の高い工芸技術を保護するため、昭和32年4月25日に国の重要無形文化財に指定されました。さらに指定技術を保護し、伝承者の育成を行うため昭和35年10月27日に「財団法人重要無形文化財久留米絣技術保存会」が設立されました。

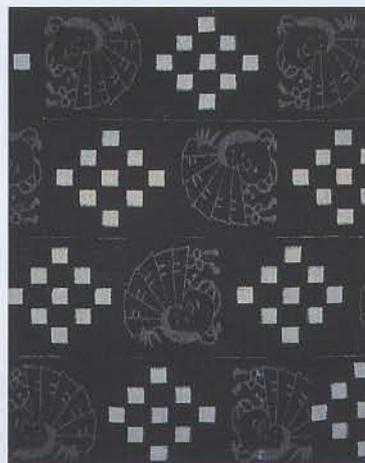
現在、久留米絣技術保存会は、保持者・伝承者の作品を保存し、さらに新人を育成するため、研修会や展示会を実施しています。



ふとん絣「高砂翁媪」  
(明治末期)



ふとん絣「松竹梅」  
(明治末期)



ふとん絣「市松・お多福と扇」  
(大正初期)



ふとん絣「城と山道」  
(明治初期)

### ◆ 歴史散歩No.21 ◆

平成16年3月31日

発行 久留米市教育委員会

〒830-8520 久留米市城南町15-3

教育文化部文化財保護課 0942-30-9225